

CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ
岡崎本社 ☎0564-24-2511
岡崎市吹矢町8番地
豊田営業所 ☎0565-28-3891
豊田市豊栄町6丁目1番地

木材不足で工期や契約、資金繰り影響 国交省、JBN、木住協、全建総連

国交省と住宅・建築関係の3団体は、6月14日に開かれた森林を活かす都市の木造化推進議員連盟の総会により、工事遅れや契約見送り、資金繰りが厳しくなるなどの影響が出ていることを訴えた。直近の調査で工務店から「来年の見通しが立たない」との声が上がっていることも示され、今年よりもより来年の着工数を懸念する事態となり始めていることが伺えた。

国交省は5月26日から6月2日にかけて、中小工務店125社に対して5月末時点の状況調査を行なった結果を報告。回答があった106社のうち97社で木材の供給遅延が発生していた。工事遅れについて回答した88社のうち、31%が現在の工事に遅れが生じていた。

また、新規契約について、回答した92社のうち25%がここ1カ月の間に新規の契約締結を見送った物件があると回答。資金繰りについて回答した90社のうち22%が、資金繰りが新たに厳しくなっていると答えた。資金繰りへの影響が出ていることについて国交省は、中小工務店でも活用可能な融資制度の相談窓口として日本政策金融公庫と沖縄振興開発金融公庫を紹介するとともに、早めの相談を促す。

JBN・全国工務店協会は「輸入材、国産材ともに価格の高騰、品不足で工事がたてにくい」「当初は関東だけで大騒ぎだったが、東海でも5月後半から生産

調整を始めたプレカットが増えた」「上棟しても次の部材がなくて現場の職人が待ちになってしまおう」「普段はWウッドを主に使っている青森県等では、7月からプレカット工場が稼働できないのではと危ぶまれている」など、本部に寄せられた会員の声を報告した。

日本木造住宅産業協会は、会員の工務店にヒアリングした結果として「プレカット工場からの納入が絞られてきている」「価格が下がって見込みがない」「金物も含めて木材以外の建設資材も上がっている」との状況を示し、大手住宅メーカーと比較して、見積もりや工期に余裕がない中小工務店はより厳しい状況にあることや、営業面で見積もりや納期が提示できず、徐々に受注が難しくなる方向になっているとの懸念を訴えた。

全国建設労働組合総連合は6月のヒアリング調査で出た工務店の声として「土台が入ってこないで基礎ができた状態で止まっている。工事が止まると職人の仕事も空く」「現場の動きが鈍っているため手間請け仕事の職人は仕事が途切れがち」など職人の離職への懸念や、「新規契約の話は止まっている。いつ良くなるか誰にも分からないので不安。先に話を進めていけない」「来年の見通しが立たない。秋以降に工事が出来ることになり大赤字になる」など、先が見えないことへの不安を伝えた。

前回時より景況感悪化

7～9月需要動向調査

ジャパン建材

ジャパン建材が取引先の工務店・販売店3000社に行なった7～9月の需要動向調査で、予想景況感が前回（4～6月期）を下回った。景況感（2020年7～9月期）を底に3期連続で改善していたが、木材の価格高騰と供給不安をもたらすウッドショックへの懸念が反映された。今後の景況感（ウッドショックの行方次第ともいえる）。

同調査は、4月下旬から5月中旬に同社の取引先3000社にインターネットで行い、その結果をまとめた。前年同期と需要を比較し増減を数値化した。

その結果、7～9月の工務店の需要予想はマイナス40・6%と、4～6

月のマイナス34・5%から6・1%悪化。販売店の予想もマイナス43・1%で、工務店予想と同様、前回のマイナス38%から5・1%悪化した。

メーカーを対象にした調査でも、合板、木質建材、窯業・断熱、住設機器の全分野で、前年から減少予測が拡大した。窯業・断熱のみ増加予想が前回時からプラス4・5%伸びたが、総じて販売予測はこの先減少するとの見方が多かった。

ウッドショックへの対策については「樹種の変更」が多かったものの、「工期の延長」も全体の20%を占めた。グリーン住宅ポイントに期待することについては、半数近くがリフォーム工事と回

答。また今年4月から始まった省エネ法改正による説明義務化の対応については、対応できていない、あるいは知らなかったとする回答が半数を占めた。

需要動向の数値は、需要が前年同期比と比較し、増加、微増、前年並み、微減、減少の5つのなかから選択してもらい、増加、微増を回答した会社の構成比（%）から、微減減少を回答した会社の数の構成比を差し引いたもの。数値がマイナスということは、7～9月の需要が昨年7～9月の需要と比較して減少すると予想している企業が多いことを示している。

表示説明	値下げ	横ばい	値上げ
市況状況	ラワン薄ベニヤ	・	・
	ファルカタ正寸12mm T2	・	・
	針葉樹12mm 3×6	・	・

最新先物コスト急上昇

欧州材商況

欧州産構造用集成材の第3四半期交渉は、Wウッド集成管柱、Rウッド集成平角とも850～1150ユーロ（C&F、立方材）で概ねまとまった。下値でも前回比30ユーロ以上の値上がりで、産地企業間の提示価格も開きが大い。円建てコストは高値契約でWウッド集成管柱が5300円以上（本）、Rウッド集成平角が16万円以上（立方材）になり、現行の市価の2倍ほど跳ね上がる。その他品目でも、2×4材が800ユーロ台（C&F、立方材）、再割用原板が600ユーロ程度（同）などの高値が聞かれ、総じて大幅値上げとなった。羽柄材はWウッドKD間柱の7、8月積み契

約が進行中。値上げ啗えではあるが、提示価格はばらつきがある。供給量は引き続き縮小傾向。北米製材市況が値下げの動きを見せたことで、8月以降の欧州材交渉での影響に関心が集まる。ただ、欧州域内の木材需要は継続しており、欧州向け製材価格は未だ強基調。現時点で目立った弱気要素は見当たらない。産地の生産状況は地域や工場によって差がある。北欧では各需要向け総生産量が3、4月と前年を上回り、丸太生産から工場稼働まで堅調。夏場にかけても安定生産が見込まれる。一方、中欧は丸太不足が生産に影響を及ぼしており、通常より長めの夏休みをとる工場の動きもある。輸送環境は、コンテナ手配の企業間格差が残り手配料も高値。

經由地での滞船は現在も発生しやすいものの、コンテナ不足は緩和に向かっている。

入荷遅れが一部解消されたとする声が複数あるが、値上がりは続いている。問屋は先物の数量・価格から「年内は値上がりが続く」と予想。直近はWウッド集成管柱の不足感が顕著だが、住宅需要は変わらず、新規物件のプレカット加工が11月以降になるケースも。

Wウッド間柱は3層と4層両方で不足しており、問屋は「立方材10万円超も時間の問題」という。同集成管柱も、メーカーの出荷額が上がる7月は3000円超の見通し。Rウッド集成平角は、ひつ迫感は薄れたが、再度不足が深刻化する見通し。

名古屋

総数3カ月連続で増加

19年比では9%減水準 5月の新設住宅着工

国交省は6月30日、5月の新設住宅着工を公表した。総数は7万178戸（前年同月比9.9%増）と、3カ月連続で増加した。昨年5月は同4月からの緊急事態宣言で激減したため、今年の増加幅が大きくなった。持ち家、貸家、分譲と前年同月を上回り、戸建て分譲は18カ月ぶりに前年同月比で増加した。昨年5月は同4月からの緊急事態宣言で激減したため、今年の増加幅が大きくなった。持ち家、貸家、分譲と前年同月を上回り、戸建て分譲は18カ月ぶりに前年同月比で増加した。

ただ、コロナ禍を経て回復傾向にはあるものの、19年比では総数で約9%減が続いている。2020年5月は6年ぶりに7万戸を割り（6万3839戸）リーマンショック後の水準まで減少した。そのため今年5月は約10%増となったが、19年5月（7万2581戸）比では3.3%減。19年は10月からの消費増税10%を前に、3月で消費税8%経過措置が終了。そのため同4月から、駆け込みの反動減で住宅会社の受注は減少傾向に入っていた。16、18年の5月は7万9000戸前後

で、そこから考えると21年5月の約7万戸は10%以上減っている。21年1～5月累計は33万5698戸（前期比2.5%増）と約8000戸増加した。ただ、19年同期（36万7581戸）に比べると8.7%減で、約3万2000戸減っている。20年総着工戸数は約81万5000戸だったが、現在の2.5%増水準が続くと21年総数は約83万5000戸になる。21年4月から本格化したウッドショックにより、4月中・下旬から一部で1週間程度建

設が遅れ始めた。工期や住宅契約価格が不透明化し、住宅建設見送りの可能性も指摘されている。ただ5月の着工戸数を見る限り、比較する前年の数字が低すぎてウッドショックの影響は読み切れない。21年5月の持ち家は2万2887戸（前年同月比16.2%増）と7カ月連続の増加。20年5月は2万戸を割り、約60年ぶりの低水準だった。21年1～5月累計は10万7694戸（前期比7.0%増）と約7000戸増。ただ19年同期（11万5583戸）と比べると、6.8%減で約8000戸減っている。貸家は2万5074戸（前年同月比4.3%増）と、3カ月連続で増加した。21年1～5月累計は12万3494戸（前年同期比0.6%増）で前年より744戸増。ただ19年同期と比べると9.7%減となり、約1万3000戸減った。

国産合板商況 活況収まらず

国産針葉樹合板の荷動きは依然として活況だ。木材製品不足によるプレカット会社の受注制限が本格化しているが、「全体的な発注量は大きく減少していない」（商社）との声が多い。品薄感と先高観が広がり、加えて製品不足が続くなかで、発注量を減らせば木材製品がある程度確保できるような状況になった。仕事に影響が出かねないとの懸念があるためだと見られている。木建ルートは在庫確保の動きが中心だが、代替需要などで針葉樹合板への引き合いは強い。直需・木建ルートとも活発な引き合いが続くなか、メーカー在庫は減少傾向が続いている。5月の針葉樹合板の生産量24万6400立方尺に対し、

出荷量は25万4400立方尺。出荷量が生産量を上回ったため、在庫量は9万6300立方尺（前月比7300立方尺減）となっており、国内合板メーカーでは生産した製品を出荷するようないくつかのメーカーは、納期遅れも発生している。既に7月の受注枠もほぼ完売しており、しばらく在庫の回復は見込めない。国内合板メーカーは、原木など原材料の安定的確保に向けて、東西両方とも7月からの値上げを打ち出している。流通業者の間では、既に7月の値上げを前提とした販価を打ち出し始めている。

針葉樹合板は川下の引き合いが多いため流通在庫は減少を続けており、納期も時間が掛かっている。メーカーは受注残を背景に増産する姿勢だが、国産杉丸太など原料の不足と値上がりを受けて生産コストが上昇しており、今後は更なる価格改定の動きが強まりそうだ。ウッドショックにより木材全般で価格の底上げが進んでおり、合板も早期に確保しておこうという動きがある。

構造用3×6判12ミ厚は品不足感が強まっており、原材料高を受けて価格は前月比50円高の強基調。供給側は強気な動きで、更なる先高観が出てくる。同24ミ厚、同28ミ厚も同50円高に。大口需要家のプレカット工場は合板や集成管柱、羽柄材の不足で受注調整を続けている。18カ月ぶりに増加した。

名古屋地区

名古屋地区内では、柱や土台といった国産材製品の値上がりを追いかける形で桧並材の価格が急騰している。外材製品も当面は入荷が増える見通しがないため、値上がりが続く。また、国産材針葉樹合板は流通在庫が減少し、納期が掛かっている。

製品価格の上昇に伴い、前月は桧並材価格が大幅に上昇。並材の柱取りや土台取りは、立方尺3万円台に達しているが小幅で、桧との価格が広がっており、これを危惧する声も聞かれる。桧3寸柱取りと4寸土台取りは前月比1万円高、桧6寸通し柱は同9000円高。杉は3寸柱取りが同1000円高、4寸中目が同2000円高。直近は桧の柱や土台などで立方尺10万円超の水準に達した国産材の製品だが、外材製品の代替需要が主因であることを指摘し、行き過ぎた値上りが危惧する声も。ただ、地区内製材工場は原材料の調達難化を直近の課題に挙げており、増産は容易ではない。このため、値上がりは当面続きそう。また、前月は競争による製品価格の暴騰を避けるため、並材製品のみに入札方式を採用した市場もあった。

欧州材製品は前月に入荷遅れが一時的に解消されたとの声があったが、値上がりは続く。問屋は先物の数量・物価から年内は値上がりが続くと予想。ウッド間柱は3、4寸双方で不足が続く見えてきた。10万円超も見えてきた。7月には3000円超が予想される。Rウッド集成平角は、入荷遅れの解消でひつ迫感こそ薄れたが、7月以降は再度不足が深刻化する見通しだ。欧州産Rウッド3寸KD間柱（立方尺）は前月比8000円高、国産Rウッド集成管柱（本）は同700円高、Rウッド集成平角（立方尺）は同2万5000円高。米材輸入製品も調達難やコスト上昇で不足が続いており、国産材による代替材の対応も困難な情勢だ。米松KDタルキ4寸×45ミ角（立方尺）は前月比1万5000円高で、天井が見えない。国産桧の値上がりもあり、米ヒバ芯去り土台5寸角も同1万円高だ。

桧並材が急騰

針葉樹合板は流通在庫減少

針葉樹合板は川下の引き合いが多く在庫が減少。これを受けてメーカーは増産姿勢だが、杉など原材料価格が上昇しているため、可能性が高い。構造用3×6判12ミ厚、同24ミ厚はいずれも前月比50円高。

米松商況 値上がり続く

米松丸太は依然として日本向け供給量の少なさと国内在庫の減少を背景に、調達をめぐる情勢は厳しい。名古屋地区で米松丸太を多めにストックしていた製材工場では米松の代替需要が集まり、フル生産を続けているが、先行きの丸太確保は不透明で、国産杉などの取り扱ひも増やしているという。供給事情の改善が望まれるところだ。価格は玉不足から今月も値上げが続く。米松からジョーラー級からジョーラーまで軒並み前月比500円高で、更なる先高観も。米ツガは不足感から選木が同500円高、並材が同400、500円高に。色物のアラスカ材も強基調が続いている。